

平成18年度 きのくに芸術新人賞

なか にし とし や
中 西 俊 哉

住 所：愛知県

出 身 地：和歌山県日高郡由良町

生 年：昭和38年

■現在

ヴァイオリニスト

◎業績及び経歴

昭和38年由良町に生まれる。4歳より父である中西忠氏にヴァイオリンを習い、由良町立白崎小・中学校の頃から忠氏主宰の和歌山室内管弦楽団の団員として県内無料巡回コンサートに約150回参加する。昭和57年京都市立堀川高等学校音楽科を、昭和61年京都市立芸術大学音楽学部弦楽専修を卒業する。また、古武滋野、岩淵龍太郎、橋本寿子、梅原ひまりの諸氏に師事する。

大学在学中に(財)名古屋フィルハーモニー交響楽団入団オーディションに合格、平成14年に同楽団アシスタント・コンサートマスターに選任される。平成17年にはEXPOスーパーワールドオーケストラのメンバーに選ばれ、「愛・地球博」開会式演奏会に参加する。また、同年東京国際フォーラムでの国際的音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」に出演依頼を受け、名古屋フィル弦楽四重奏団を率い、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第10番(ハープ)を演奏し、満場の拍手を受ける。緻密でかつダイナミックな演奏は聴衆を引きつけ、高い評価を受けている。

現在は、和歌山室内管弦楽団ソロ・コンサートマスター及び(財)名古屋フィルハーモニー交響楽団アシスタントコンサートマスターとして国内外で活躍するとともに、「熊楠の里音楽コンクール」の審査員として後進の指導も行うほか、室内楽の分野においても、カルテット「DISSONANZEN」「ザイデルトリオ」のメンバーとして積極的に活動している。